

企画展

ばんどうろ人物散歩

さしま編



2026年
3月14日(土)
5月6日(水休)



坂東郷土館ミュージズ
HP



忍田政治 金子哲男 木村昭吾
二世五姓田芳柳 中川祐俊 初見一雄
平勢雨邨 武笠十三 和田賢次
(五十音順 敬称略)

坂東郷土館ミュージズ



坂東市立資料館

〒306-0502 茨城県坂東市山 2726

TEL 0280-88-8700-0297-44-0055

最新情報はホームページをご覧ください

ごあいさつ

このたび坂東郷土館ミュージズでは、企画展「ばんどう人物散歩 さしま編」を開催いたします。

郷土の特筆すべき人々にスポットをあて、寄り道をしながら散策をするように、栄誉ある功績や地域への貢献、センセーショナルなニュースなど、それぞれの足跡をオムニバス形式で紹介します。

今回は旧猿島町ゆかりの9名の方々に因んだ「さしま編」として、近代日本洋画界をけん引した二世五姓田芳柳をはじめ、版画・水彩画・切り絵作家、書家、美術家の方々、時の話題をさらった方など多様な人物像を盛り込み、後世にのこされた作品や記録資料から、各人の偉業を顕彰します。

1970年大阪万博（日本万国博覧会）への道のりを自転車で走破した忍田政治、考古学的要素のモチーフなど独走性あふれる銅版画制作を行った金子哲男、全国中学校サッカー大会で市立古河第一中学校を3度の優勝に導いた木村昭吾、真言宗豊山派の管長を務め、多くの人々を救い、書画にも勤しんだ萬蔵院住職中川祐俊、詩・書・画・篆刻・刻字全てに精通し、数々の後進を育てた初見一雄、学術的な書法論を展開しながら裾野の広い書道活法会を創設した篤学の書人平勢雨邨、土地の原風景を水彩画におさめた武笠十三、表現力豊かな切り絵の技術と多才な指導で人々を和ませた和田賢次（敬称略）。

ここに挙げさせていただいた方々は皆、自身の労苦を惜まず、人々に感動や楽しさをもたらしてくださいました。本展を観覧された皆様に、創作意欲の高揚や活動の指針を見いだす契機など、何らかの影響を及ぼすインフルエンサーとなるかもしれません。

本展の開催にあたり、貴重な資料や芸術作品を快くご出品くださったご遺族、記憶をたどりつつ詳細な人物像をお話くださった関係各位、そのほか多大なご協力をくださった皆様に心より感謝申し上げます。

令和8年3月

坂東郷土館ミュージズ

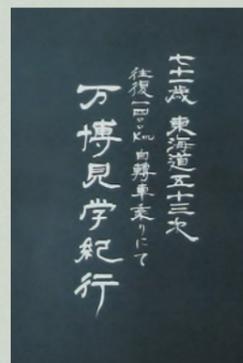
ご協力いただいた方々

綿引 治子 和田 文 武笠 敏通 初見 太清 斉藤 雅浩 古河市立古河第一中学校
 慈徳山萬蔵院 中川 祐聖 書道活法会 平勢 説郎 林 一之
 板垣 隆 板垣 伸子 角田 拓朗 (一社)古河市観光協会 (株)草土舎
 坂東市立弓馬田小学校 坂東市教育委員会学校教育課

(順不同 敬称略)

忍田政治

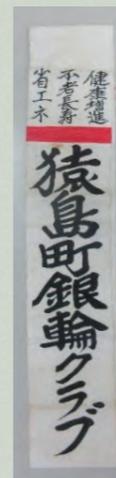
1970年5月15日
 大阪万博（大阪府吹田市）へ向け
 猿島町役場前を出発
 町長、町議、職員、新聞記者らが見送った
 往復1400kmの道のりを自転車で走破
 全行程19日間（大阪滞在3日）
 綿密な計画とトレーニング
 愛車 光風健康号に「初志貫徹」のノボリ
 ヘルメット、背広、ワイシャツ、ネクタイ、
 ブック靴とタスキ着用で臨んだ



『万博見学紀行』
 出発に至る経緯から
 道中の様子
 激励や祝辞
 新聞記事等が
 まとめられた冊子
 赤城宗徳衆議
 岩上二郎知事
 山口武平県議ほか
 多くの要人が寄稿



昭和53年(80歳のころ)



猿島町銀輪クラブ
 (自転車乗り同好会)
 を組織
 基本理念は
 ・健康増進
 ・不老長寿
 ・省エネ

昭和57年7月23日
 当時の長寿世界一
 泉重千代翁(117歳)
 を徳之島(鹿児島
 県)に訪ね長寿の
 秘訣を聞く
 政治氏は平成11年
 3月100歳を迎える
 年に逝去



忍田政治 おしだまさじ (1899-1999)

邸内に建立されていた「忍田政治碑」より抜粋
 明治32年 猿島郡逆井山村大字山に生誕
 大正6年3月 県立下妻中学校(現下妻一高)を卒業
 大正9年 国立養蚕試験場にて研修
 大正13年より20年間 養蚕教師、桑苗検査員として勤務
 農協関連役員を歴任
 昭和45年 大阪万博に自転車にて往復1400km走行
 昭和53年11月3日 勲五等瑞宝章叙勲
 昭和57年7月 泉重千代翁を訪ね長寿の秘訣を懇談
 村議会議員、農業委員会会長、PTA会長等を歴任

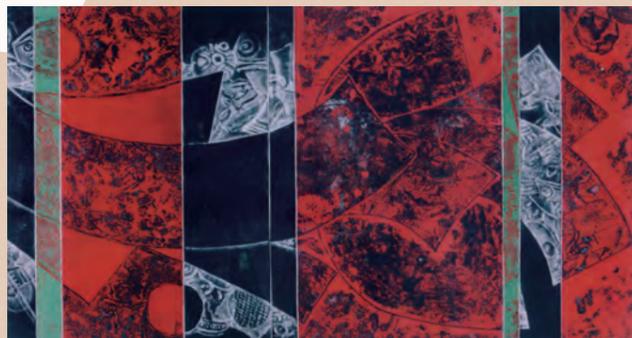
金子哲男



昭和42年(40歳ころ)



平成18年(2006)
ミュージズ開催銅版画教室の様子



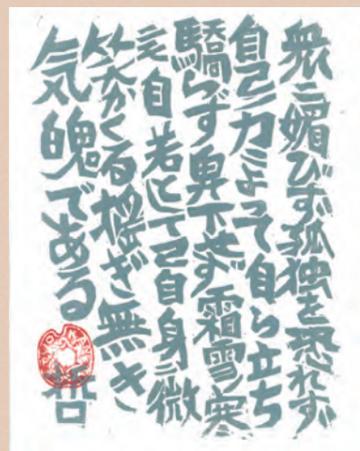
噴-II(さつ) 昭和63年(1988) 芸術公論賞



Fantasia VI
第66回(1994)
新構造展
東京都知事賞



流-IV



木版のメッセージ作品
豊島与志雄「梅花の気品」より



JŌMON75-D



写真集『美しき仏様たち』より

金子哲男 かねこてつお (1928-2018)

昭和3年猿島郡逆井山村に生まれる。戦時下の混乱の中で学生時代を過ごし小中学校教員の道へ。40代にさしかかるところ稲田年行に師事し銅版画制作に励む。各展覧会に作品を発表し昭和63年芸術公論賞、平成6年新構造展東京都知事賞を受賞。生涯当地に居を構え、縄文や民俗を題材に数多くの作品をのこす。絵画や木版画、写真にも造詣が深く、市民向け講座やオリジナル作品集の発刊も手がけた。平成30年12月90歳で逝去。

木村昭吾



昭和46年(1971)
第2回全国中学校サッカー大会
古河第一中学校 初優勝
県内10大ニュースに選出
監督先生 昭吾氏が同校に在籍した
第5回大会(昭和49年)までの間に
3度の優勝を果たした
その後、同サッカー部は通算5度
の全国制覇を成し遂げることになる



サッカー技術面を
指導した武井克己
氏と歓喜の瞬間

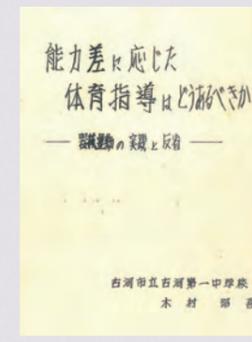


昭和46年
12月22日
NHK教育テレビ
「監督先生登場」
(生放送)に出演

茨城県広報紙の
表紙を飾る第3回
大会優勝メンバー
(昭和47年10月)
中央は岩上知事
昭吾氏は最前列
49年茨城国体に向
け期待が高まってい
た(建設中の笠松運
動公園にて)



昭吾氏は年度ごとのノートに、遠征
に係る日程や費用、練習メニュー
などをつぶさに記録していた



内地留学生として学芸大で
まとめた研究紀要の原資料

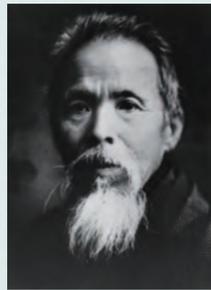
木村昭吾 きむらしょうご (1930-2018)

昭和5年猿島郡沓掛村に生まれる。同24年小学校の助教諭として敗戦後の教育に携わった後、茨城大学等で小中高の教員免許を取得。体育を中心に各教科の研究リーダーを務め成果を収めた。同42年古河第一中学校教諭となり、45年体育学習についての研究で半年間、内地留学生として東京学芸大学に派遣され、研究紀要「能力差に応じた学習指導」をまとめた。古河一中赴任中、サッカー部の監督として3度の全国優勝を勝ち取り「サッカーのまち」の礎を築く。小中学校長を退職後、猿島町教育長、郷土館ミュージズ初代館長を歴任。優秀監督表彰や体育功労賞のほか勲五等双光旭日章受章など輝かしい功績をのこし、平成30年2月87歳で逝去。



平成9年4月29日
郷土館ミュージズ初代館長(右)
として開館のテープカット
中央は木村好猿島町長

二世五姓田芳柳



瑞西國由武俱不老山(ユングフラウ)
絹本著色・個人蔵
明治43年日英博覧会から帰国の際
西欧各国を巡った経験をもとに制作



神鹿 キャンバス・油彩



神鹿X線透過像
下層に
衣冠束帯姿の男
性と思われる画像
が確認された

二世 五姓田芳柳 にせいごせだほうりゅう (1864-1943)

元治元年(1864)下総国猿島郡沓掛村(現坂東市沓掛)に生まれる。本名は倉持子之吉。数え年15歳で上京し洋画を「五姓田塾」で学ぶ。初代から芳柳の画号を継承した後、明治22年日本初の洋画美術団体「明治美術会」の創立に参加。巨大なパノラマ画制作のほか歴史画、風景画、肖像画などに和洋両画法を融合させ中央画壇で活躍。明治43年(1910)には日英博覧会(ロンドン)に派遣され、ジオラマ作品が名誉賞状を受ける。明治天皇の遺徳を称える事績画『枢密院憲法会議』や御物『明治天皇紀附図(全81葉)』を完成させる等、明治・大正・昭和にわたり幅広い画業を展開した。昭和18年1月逝去、享年80。



京都 三十三間堂 キャンバス・油彩



筑波山中
紙・水彩

赤松林の中麦わら帽子を被って写生する画家が一人。淡い色使いが初夏の日差しを感じさせる。



昭憲皇太后御肖像
絹本著色



明治天皇御肖像
絹本著色

天皇の肖像「御真影」は、明治維新後の近代国家体制確立のため、また外交上の理由からも必要とされ、国家元首として頂点に立つ明治天皇の姿が国民の間に広められていった。



舞楽図
屏風
紙本著色
大正10年(1921)



『花房義質子爵古稀祝賀詞画冊』より
(左)子爵花房義質卿肖像
(右)花房子爵夫人千鶴子君肖像

絹本著色
明治44年
(1911)

中川 祐俊



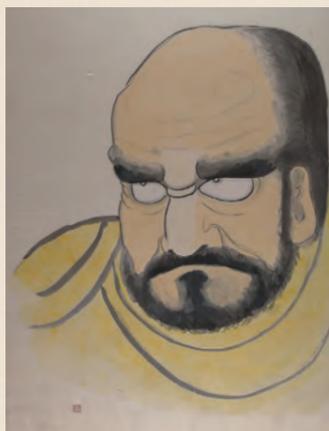
真言宗豊山派第26世管長・総本山長谷寺第80世化主就任入山式(昭和63年9月奈良県 長谷寺)



平成4年1月 ローマ教皇
ヨハネ・パウロ二世に特別謁見



自刻像と



達磨
248cm×
182.5cm
の大作



六地藏



是故応頂礼
(これゆえまさにちようらいす)



三笠宮・同妃両殿下のご台臨
慈光学園創立10周年(昭和43年5月)

中川 祐俊 なかがわ ゆうしゆん (1913-2005)

坂東市生子の萬蔵院第73世住職 中川祐俊(げいか)は、真言宗豊山派管長・総本山長谷寺化主を務め、ローマ教皇との特別謁見など多くの業績をのこされた。戦争体験や家族の病など数々の苦難を乗り越え、社会福祉法人慈光学園を創立し、福祉の拡充にも尽力。三笠宮同妃両殿下の2度のご台臨を賜る。ユーモアとわかりやすさ、含蓄のある書画や彫刻作品等を制作し「芸術家管長」とも称され、平成17年8月92歳で遷化された。

初見 一雄



安古廬(あんころ)
甘党の初見氏は
安古廬主人と号した



無(刻字)



広報さしま平成10年(1998)1月号より

干支文字切手



平成20年
つちのえね
篆書の戌子



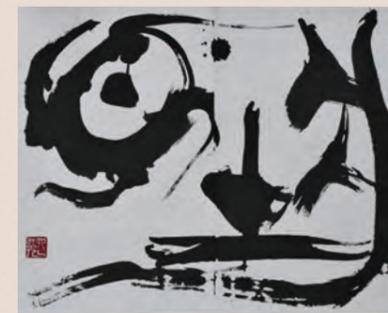
夢中夢
(刻字)



牡丹(屏風部分)



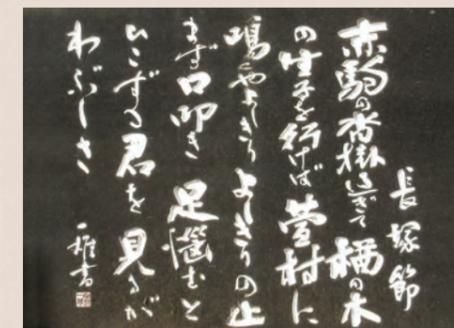
日壮(刻字 第36回日本刻字展文部科学大臣賞)と書稿



初見 一雄 はつみ かずお (1924-2018)

大正13年猿島郡逆井山村に生まれる。

茨城師範学校時代、書家関南沖に師事。卒業後は、小中学校教員として書道、美術を指導するも50歳を機に退職、書道に専念。手島右卿、大久保翠洞に師事したことで、漢詩を詠み、印を刻し、詩・書・画・篆刻・刻字全てに造詣を深め「五絶の文人」(五つの技芸に優れた人)と称された。海外における展覧会や中国への取材旅行を重ね、全日本書道連盟参事等、書道界で多くの要職を務めた。生涯、創作活動と後進の育成を続け、地域文化の振興に大きく貢献し平成30年11月94歳で逝去。公共施設の銘板や歌碑に多くの筆跡がのこる。



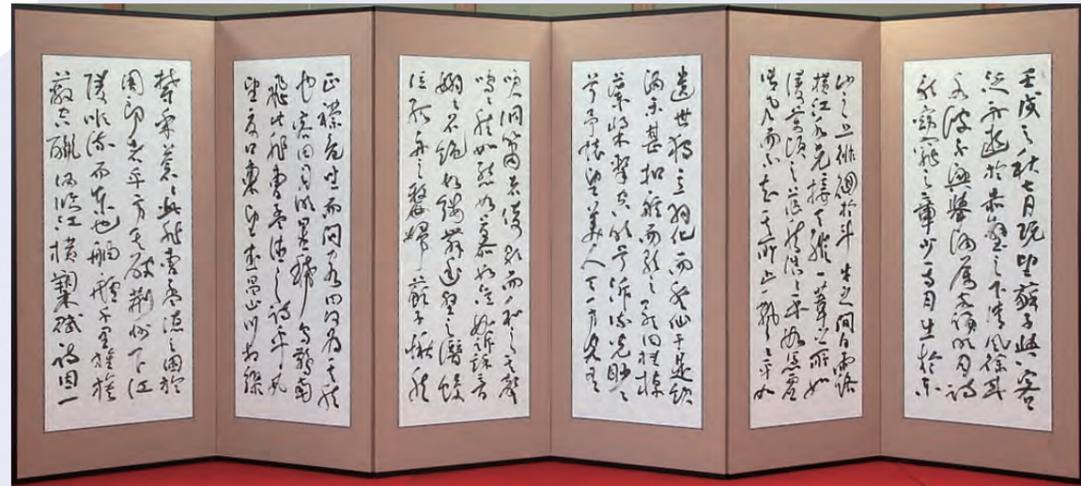
長塚節歌碑(坂東市生子)

赤駒の沓掛過ぎて檜の木の生子を行けば
萱村に 鳴くやよしきりよしきりの止まず口
叩き 足悩むとひこずる君を見るがわぶしさ

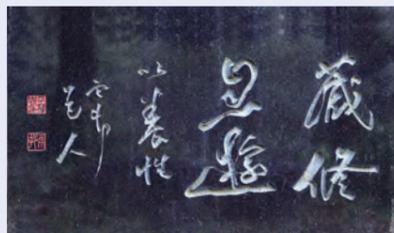
平勢 雨邨



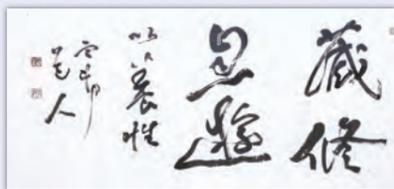
坂東市立弓馬田小学校
(昭和56年新校舍落成記念碑)



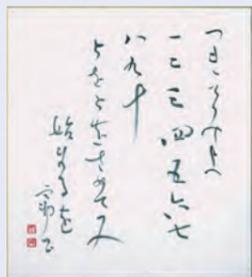
前赤壁賦(ぜんせきへきのふ) 六曲一双屏風の右隻 古代中国の詩人蘇東坡(そとうば)による名句



蔵修息遊
…学びの四段階
生子・萬蔵院にあ
る石碑と書



蔵…知識を貯め
修…練習を重ねて修得し
息…呼吸のように自然に
遊…遊ぶように応用する
『礼記 学記篇』



つきてみよ
一三三四五六七
八九十
とをとをさめて又
始まるを(良寛)

著書『現代書道の可能性』
『書林逍遥』『書想』
『精萃 図説書法論』全十巻共著

平勢 雨邨 ひらせうそん (1920-2009)

本名平勢忠夫 大正9年猿島郡沓掛村(現坂東市沓掛)に生まれる。
教育者で能筆家として知られた父・五郎(号・鶴堂)の影響もあって幼少時から書に親しむ。東京府大泉師範学校卒業後は教職に専心する傍ら、書道を田邊古邨に、漢学を松本洪に学ぶ。昭和26年(1951)書道同文会展最高特選を受賞。郷里・沓掛を拠点に書道活法会を主宰し、書道一元会会長としても書道の普及・発展と書法論の研究に務めた。平成21年3月逝去。享年90。
教職歴:東京都梅丘小学校訓導、茨城県岩井小・中学校教諭、茨城県立岩井高等学校教諭、茨城県立水戸第一高等学校教諭、青山学院大学講師

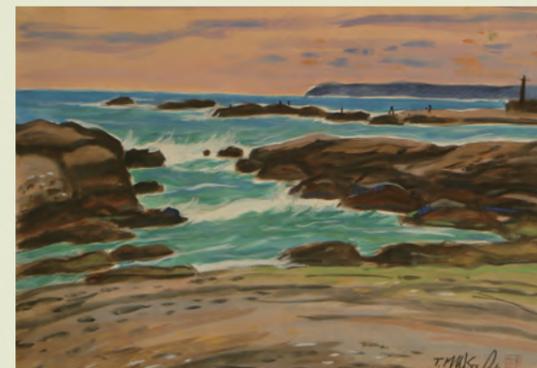
武笠 十三



菅生沼の春



イワシ



大洗の夏



ススキと筑波山



無題



おいこ版画集

昭和44年3月発行
生子菅小学校児童の版画作品集「どのページを開いても子供らしい魅力にあふれている」と記されている。



武笠 十三 むかさとも (1924-2008)

大正13年結城郡石下町(現常総市)に生まれる。
日本画を描いた叔父の影響もあり、幼いころから絵を描き始め、昭和17年(1942)旅順師範学校で油絵を専攻。昭和22年シベリアからの引き揚げ後、本格的に絵を学び学校教員となって児童生徒に美術を教えた。教職を退いてからは、各地へ写生旅行に出かけ、四季折々の風景を水彩で描いた。平成20年5月83歳で逝去。亡くなる前日まで自室でスケッチを続けたという。

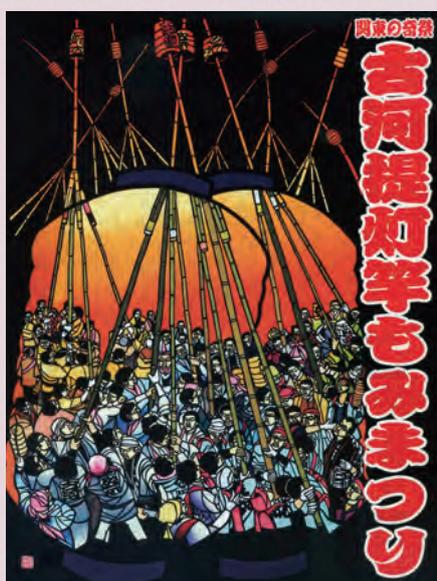
和田賢次



JRキャンペーン中の駅構内にて(和田夫妻)



花菖蒲



古河市観光協会主催
「古河提灯竿もみまつり」の
ポスターを切り絵で制作
平成21年以降
現在も使用されている



日本きりえ協会研究誌

15号に『私のきりえ』を寄稿。
きりえの制作は「誰が見て
いなくても美しく精一杯に咲
く“花”を題材に、試行錯誤
しながら“カッターナイフで描
く”充実した時間」とある。



ハイビスカスロード



薔薇が咲いた



つつじ咲く



学生時代の演劇部の仲間たち
(昭和31年) 右端が賢次氏

和田賢次 わだけんじ (1936-2025)

昭和11年猿島郡杣掛村に生まれる。茨城大学卒業後、三和、猿島、岩井地域にて教職に精励、文武両道かつ温和な人柄から、児童生徒はもとより保護者や地域住民に厚い信頼を得た。退職後、本格的に切り絵制作を始め、平成14年から日本きりえ美術展に出品。海外を含む各種美術展にも参加した。また学生時代の演劇部での経験を活かし、読み聞かせグループを指導、切り絵講座は近隣市町に及び、多くの講座生を受け持った。令和6年5月瑞宝双光章を受章。惜しまれつつ令和7年10月89歳で逝去。